

「原子炉格納容器内部調査技術の開発」

ペDESTアル外側_1階グレーチング上調査（B1調査）

の現地実証試験の結果について

2015年4月30日

東京電力株式会社



東京電力

IRID

本資料の内容においては、技術研究組合国際廃炉研究開発機構(IRID)の成果を活用しております。

1. 今回調査の範囲

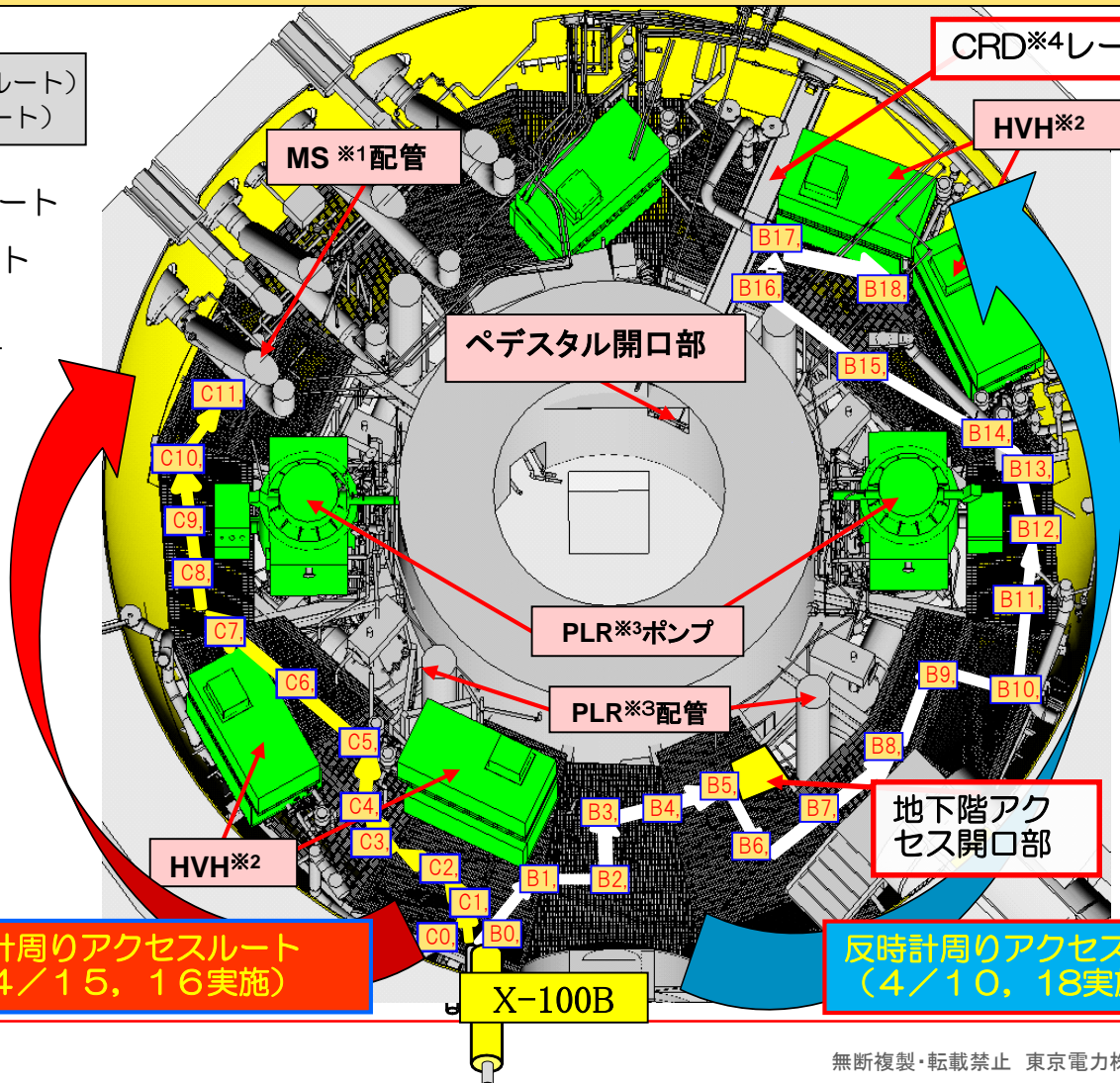
目的: 1号機について, X-100Bペネより調査装置を投入し, 『PCV内の1階グレーチング上』の情報取得を目的とした調査を実施する。

→ : アクセスルート (反時計周りルート)
 → : アクセスルート (時計周りルート)

B0, ~ B18, 反時計周りルート
 C0, ~ C11, 時計周りルート

アクセスポイント (計画)

調査装置



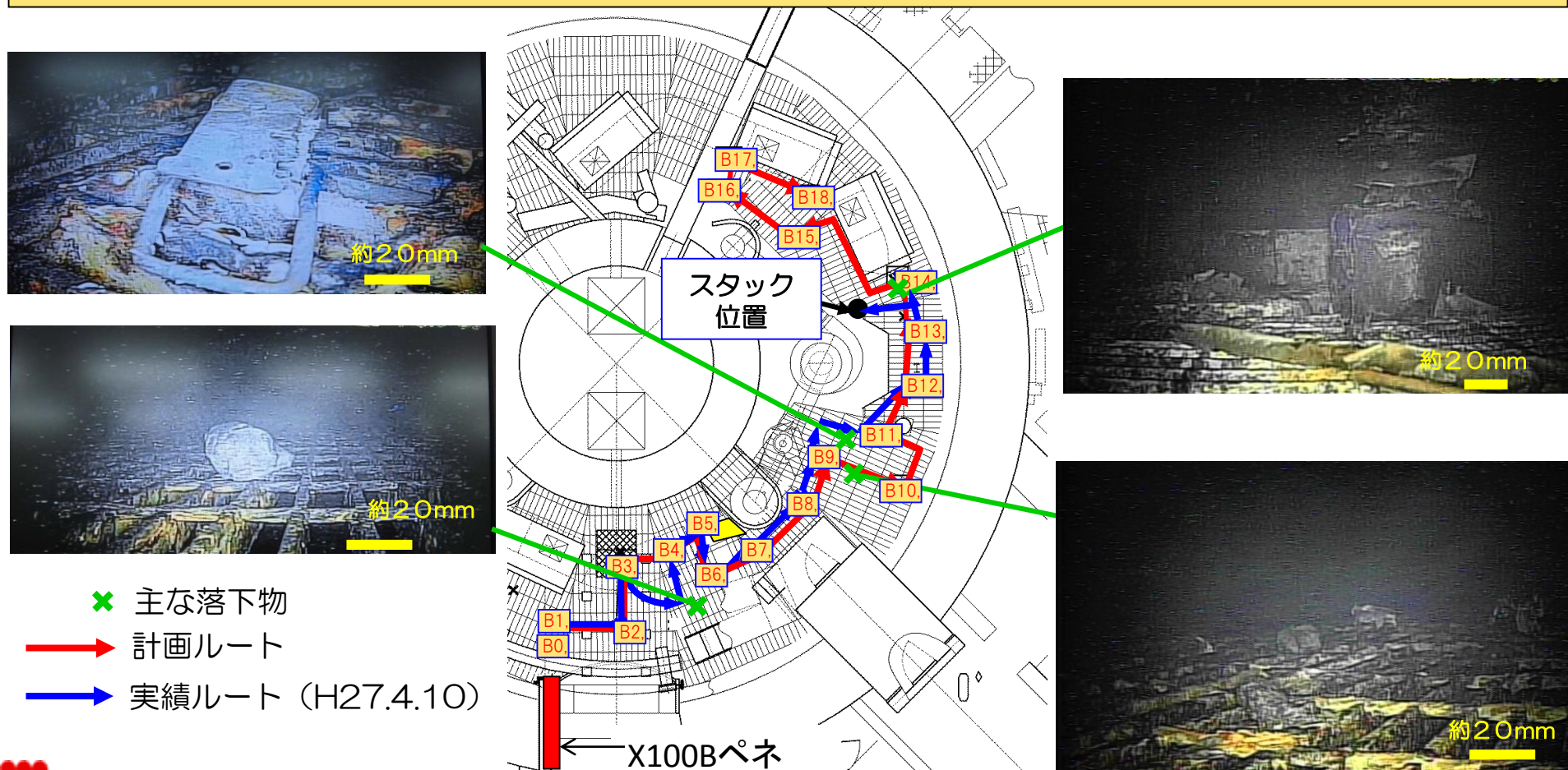
- ※1 主蒸気系
- ※2 空調ユニット
- ※3 原子炉再循環系
- ※4 制御棒駆動機構

時計周りアクセスルート
 (4/15, 16実施)

反時計周りアクセスルート
 (4/10, 18実施)

2. 反時計周りアクセスルート（実績）

- 計画したアクセスルートの一部に落下物があり、ルートを変更し調査を実施した。
- B14～B15間で調査装置がスタックした。



✕ 主な落下物

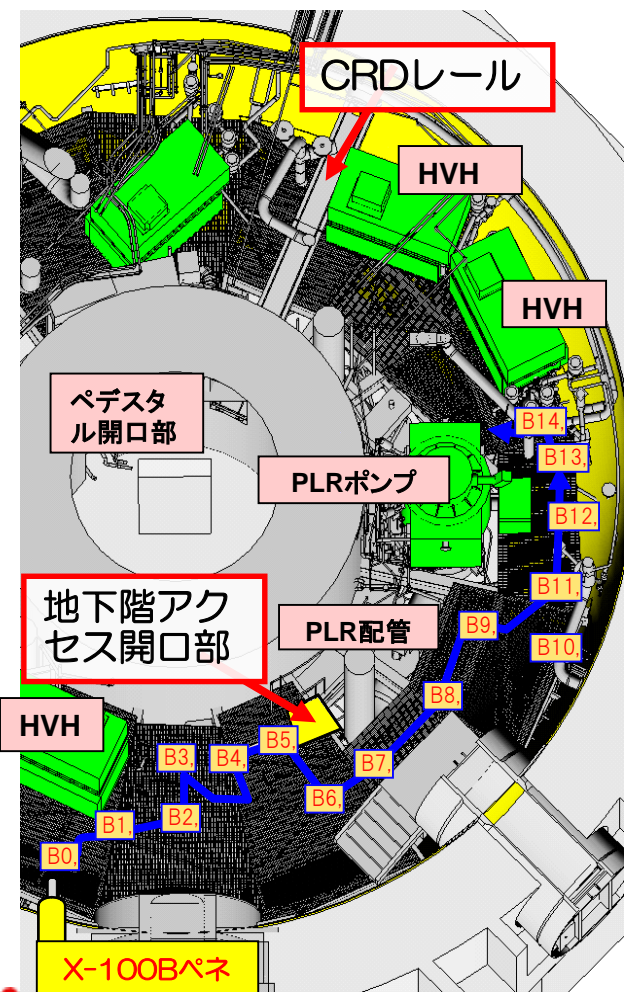
→ 計画ルート

→ 実績ルート（H27.4.10）

← X100Bペネ

3-1. 調査結果（反時計周り：4/10実施）

■アクセスポイントB14までアクセスし、以下の情報を取得した。

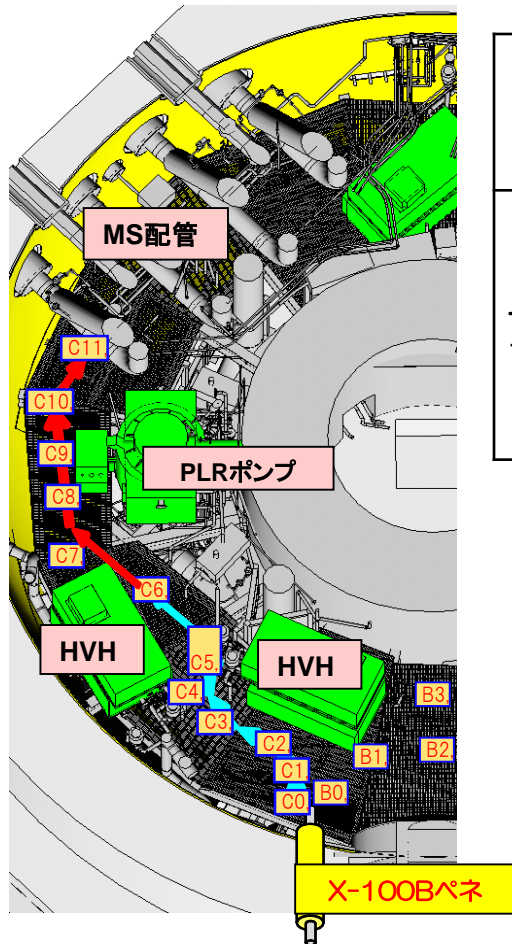


調査部位	調査結果
地下階アクセス開口部	<ul style="list-style-type: none"> 次回B2調査（ペデスタル外地下階調査）で地下階にアクセス可能な開口があり、周囲に干渉物がないことを確認。
CRDレール	<ul style="list-style-type: none"> CRDレール未到達。 最終到達地点からCRDレール方向のカメラ撮影を実施し画像処理にて評価したが、CRDレールの視認はできなかった。
アクセスルート上	<ul style="list-style-type: none"> 既設設備（HVH, PLR配管, ペデスタル壁面など）の大きな損傷は確認されなかった。 各調査ポイントで温度、線量情報を取得。

※1台目の調査装置はスタックし、回収できなかったことからケーブルを切断しPCV内に残置した（H27.4.13）

3-2. 調査結果（時計周り：4/15,16実施）

■アクセスポイントC11までアクセスし、以下の情報を取得した。



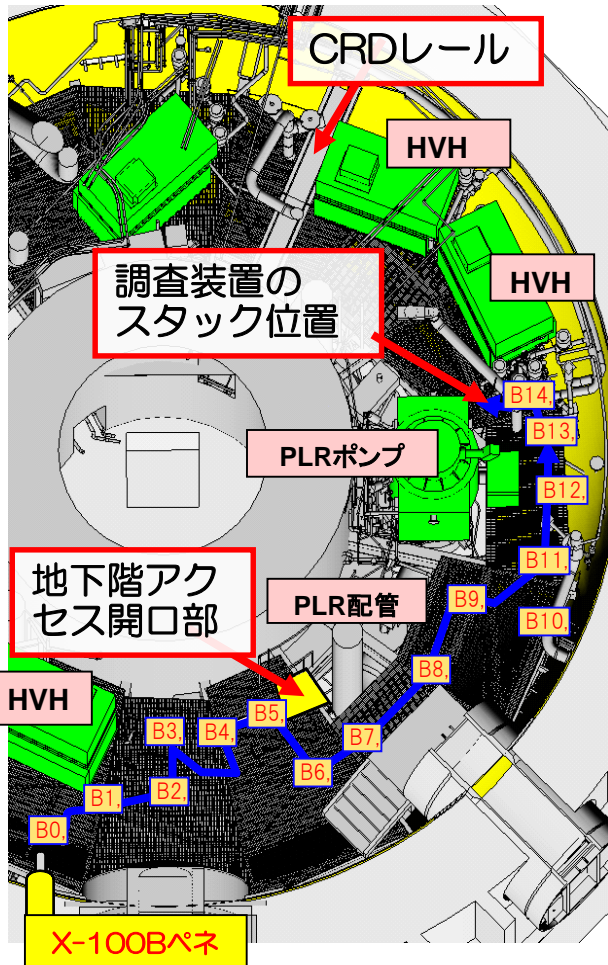
調査部位	調査結果
アクセスルート上	<ul style="list-style-type: none"> 既設設備（PLRポンプ, PCV内壁面, HVHなど）の大きな損傷は確認されなかった。 各調査ポイントで温度, 線量情報を取得。

← : H27.4.15の調査実績

← : H27.4.16の調査実績

3-3. 調査結果（反時計周り：4/18実施）

■2台目の調査装置にて反時計周りルートでの再調査を実施し、以下の情報を取得した。



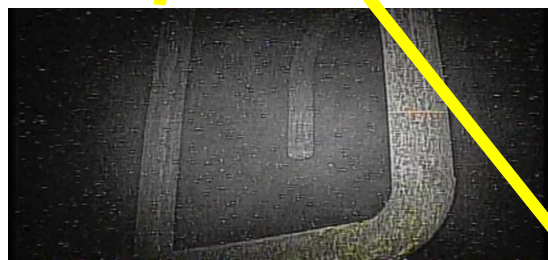
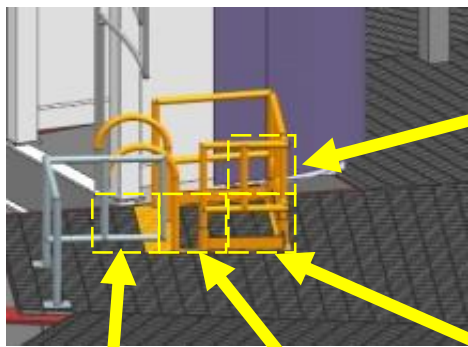
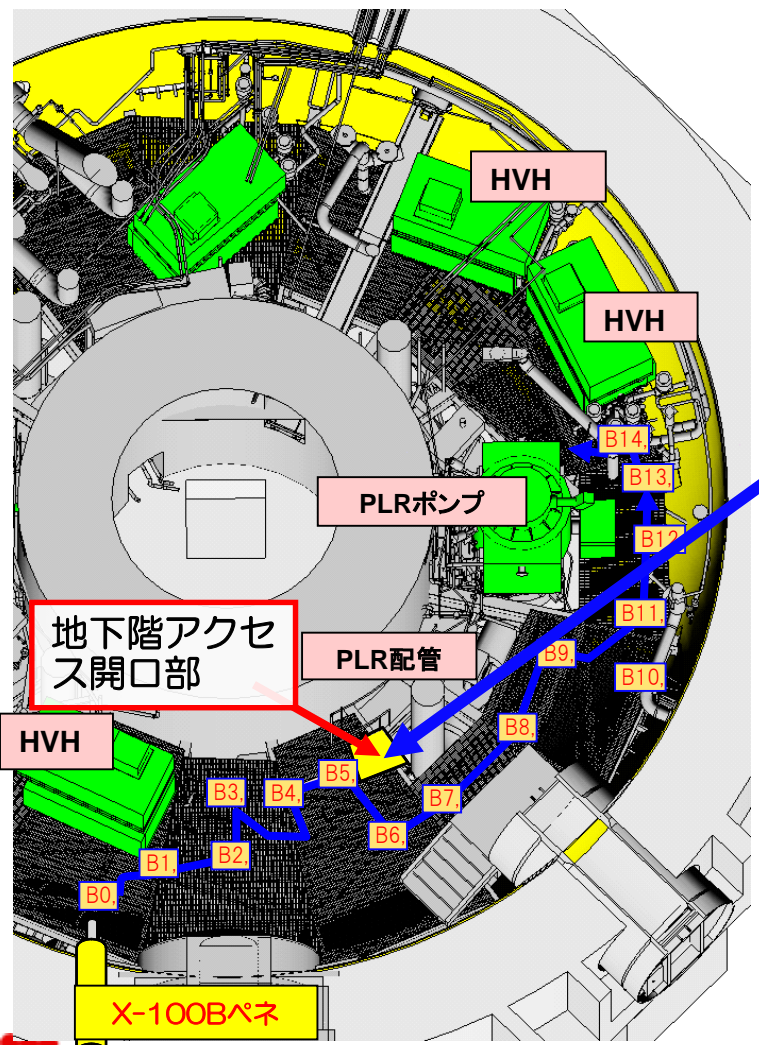
調査部位	調査結果
残置ケーブルのルート確認	<ul style="list-style-type: none"> 地下階アクセス開口部近傍の残置ケーブルは、B2調査に支障がないことを確認した。
スタックした調査装置	<ul style="list-style-type: none"> スタックしたクローラの状況を確認した。
CRDレールまでのアクセスルートの確認	<ul style="list-style-type: none"> CRDレールまでのアクセスルートは、構造物間の幅が狭く、今回の調査装置では通過できなかった。

※装置回収時に使用するパンチルトカメラが、放射線によるものと思われる影響により映らなくなったことから、将来の作業に支障を与えない位置（C2の格納容器壁側）に2台目の調査装置も残置することとした（H27.4.20）

4-1. 映像トピックス (地下階アクセス開口部)

B4から撮影

次回B2調査で地下階にアクセス可能な開口があり、周囲に大きな干渉物がないことを確認。



装置投入可能な箇所

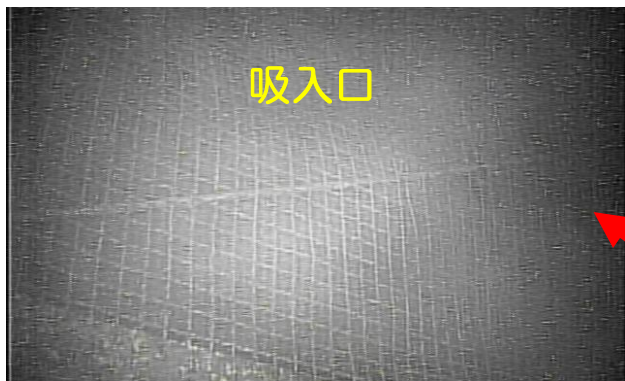


4-2. 映像トピックス (HVH (D))

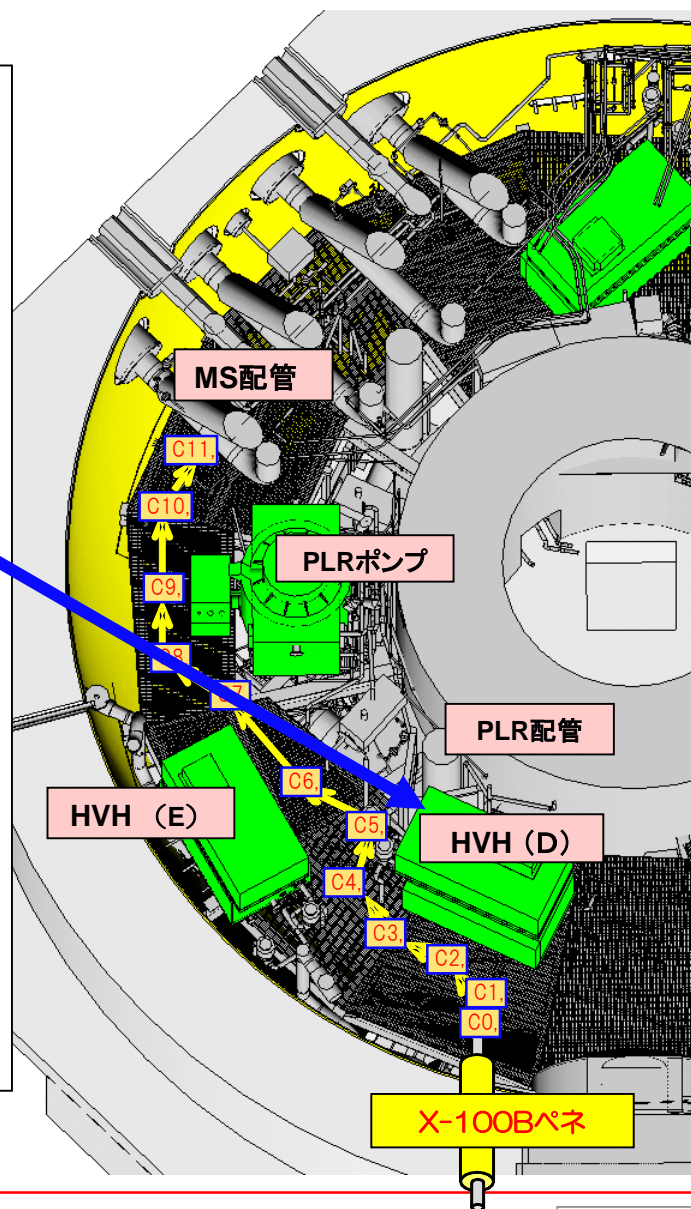
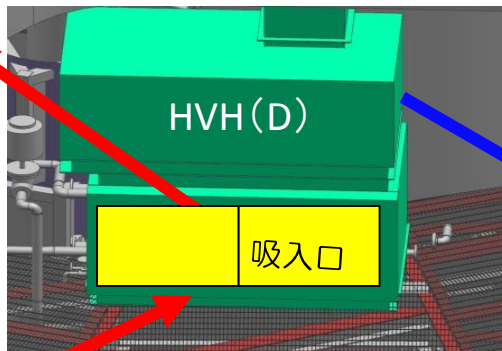
C2から撮影

HVH(D)に大きな損傷がないことを確認。

吸入口



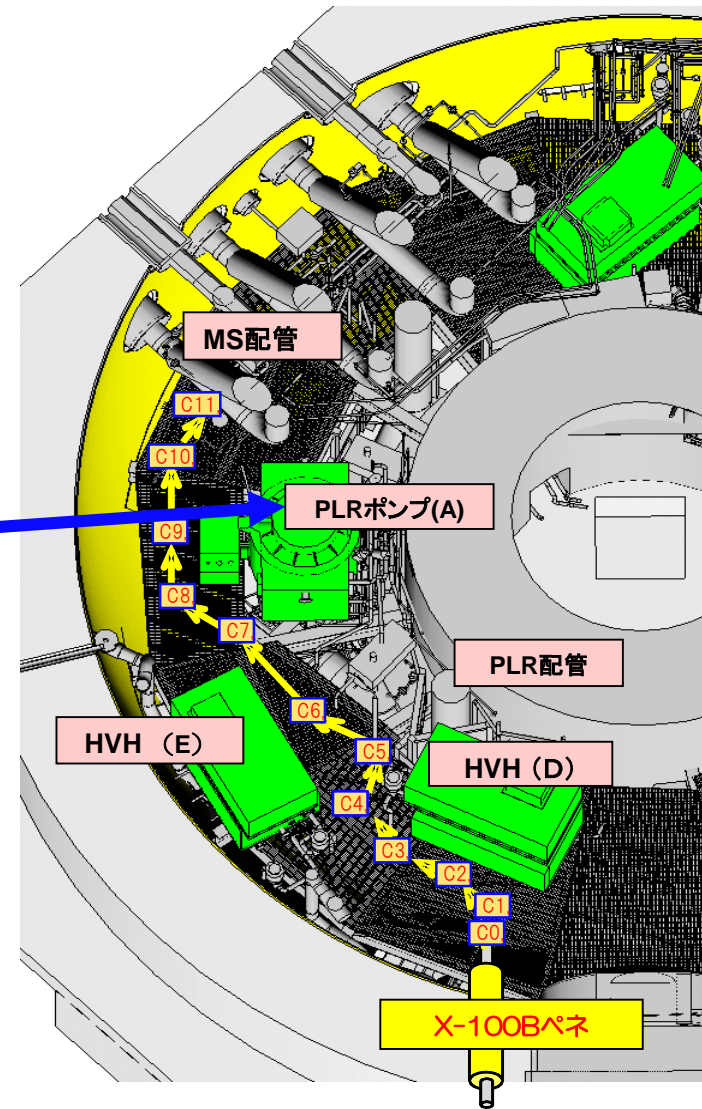
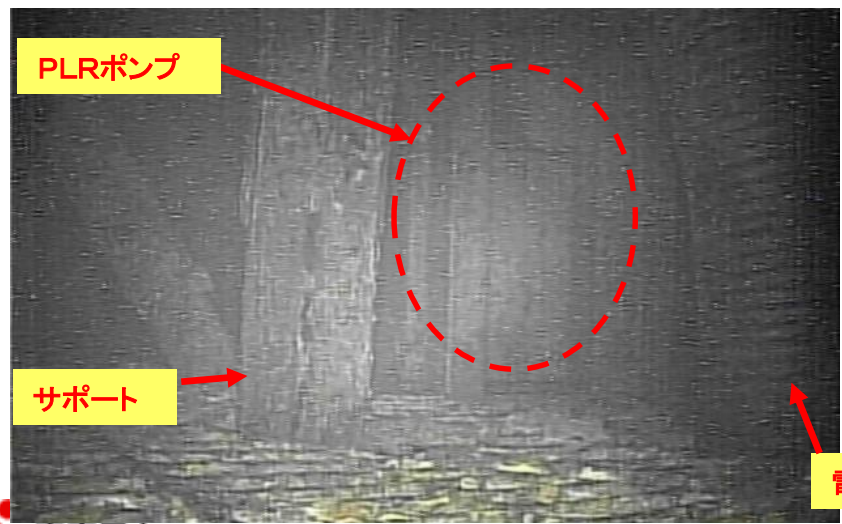
HVH基礎部



4-3. 映像トピックス (PLRポンプ (A))

C7から撮影

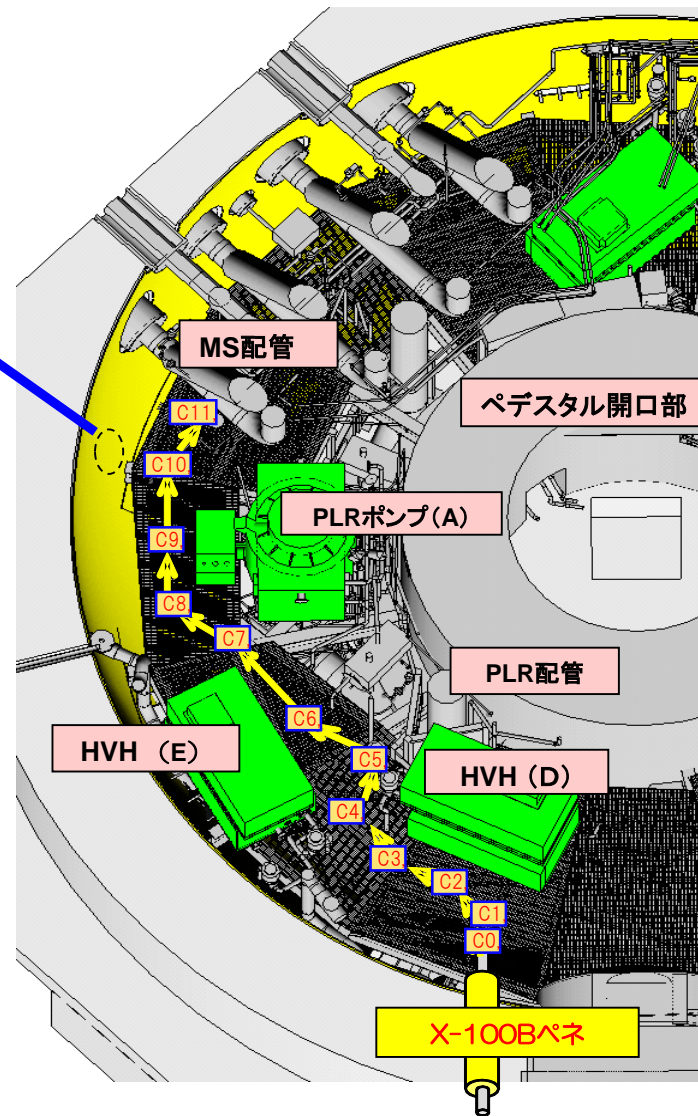
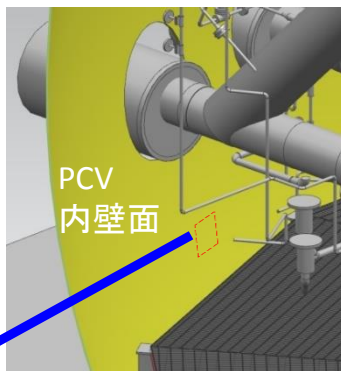
PLRポンプ(A)に大きな損傷がないことを確認。



4-4 . 映像トピックス (PCV内壁面)

C10から撮影

PCV内壁面に大きな損傷がないことを確認。



5. CRDレールの画像処理結果

■反時計周り調査最終到達地点(B14付近)からCRDレール方向の撮影を行い画像処理を実施したが、CRDレールの視認はできなかった。



ノイズ除去及び複数画像の重ね合わせ処理 (約20000枚使用)



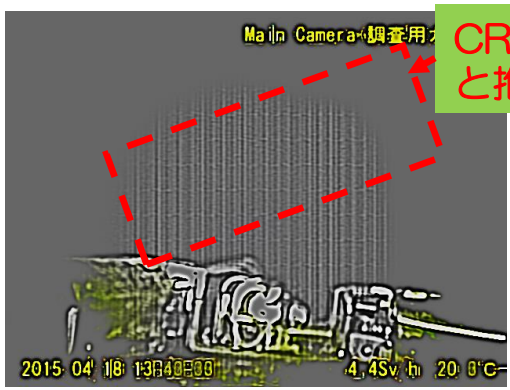
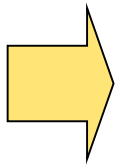
撮影画像 (4月12日18時頃撮影)

画像処理後画像

モックアップ試験による映像



ノイズ除去及び複数画像の重ね合わせ処理 (約20000枚使用)



CRDレールがあると推定される場所

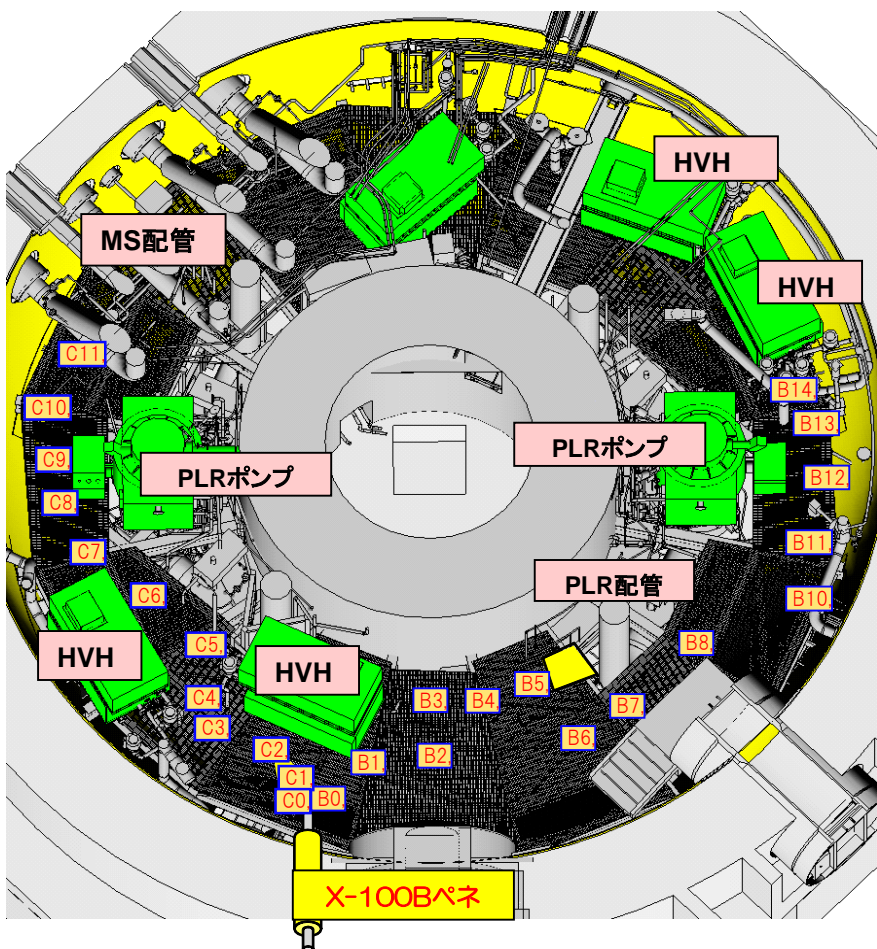
画像処理の手法として、複数の画像のコントラスト強調などの前処理を行った後、積算処理（画像の足し算＝重ね合わせ）及び平均化処理（足し算した画像を枚数で除する）を行った。

撮影画像 (4月18日14時頃撮影)

画像処理後画像

6. 温度・線量率測定結果

■以下のポイントで温度・線量率の測定を実施した。



	線量率 (Sv/h)	温度 (°C)
B3	7.4	17.8
B4	7.5	19.2
B5	8.7	19.4
B7	7.4	19.5
B11	9.7	19.2
B14	7.0	20.2
C2	6.7	19.6
C5	8.3	19.5
C6	7.7	19.4
C9	4.7	20.8
C10	5.3	21.1
C11	6.2	20.7

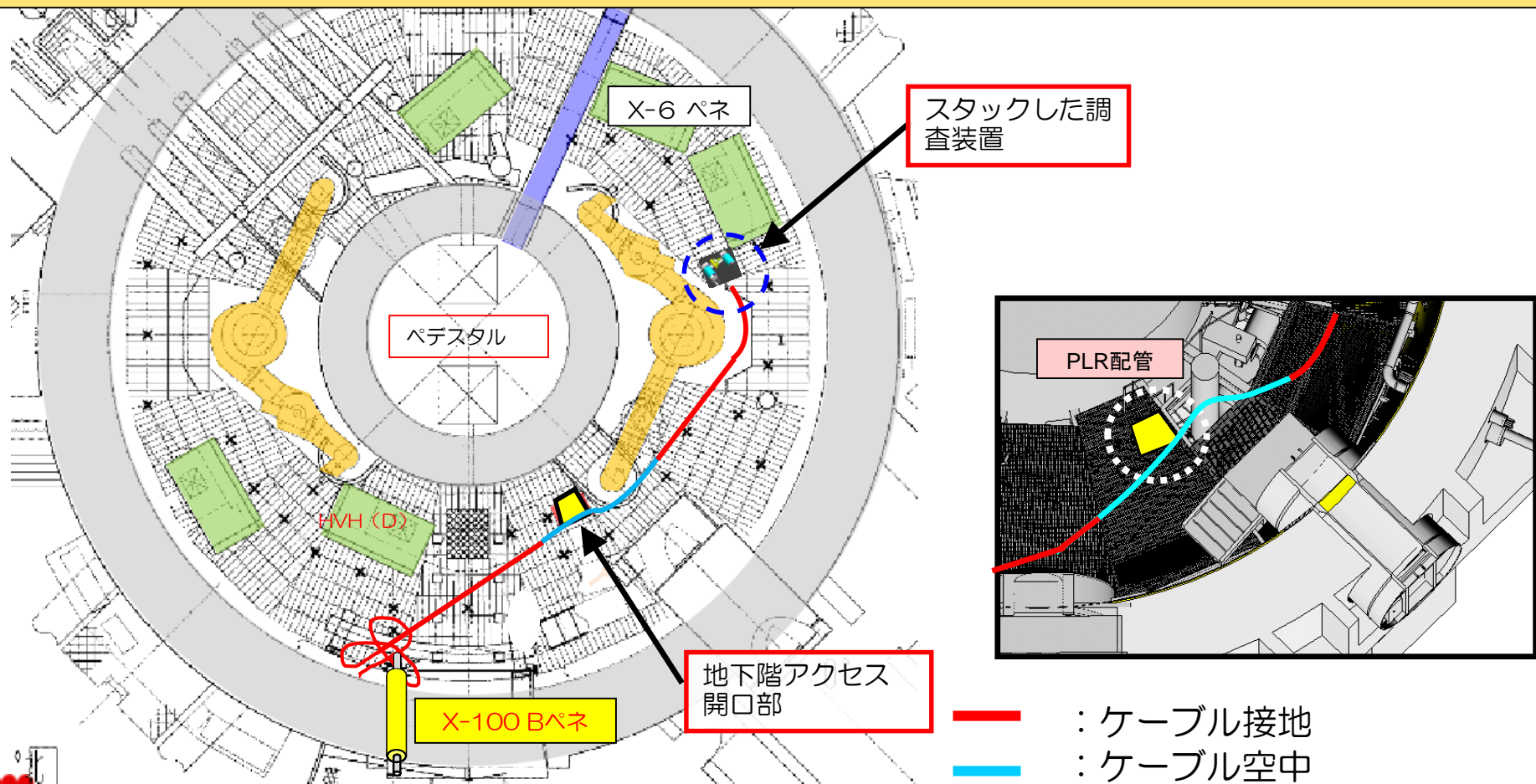
B3~B14 (測定日：2015年4月10日)

C2~C6 (測定日：2015年4月15日)

C9~C11 (測定日：2015年4月16日)

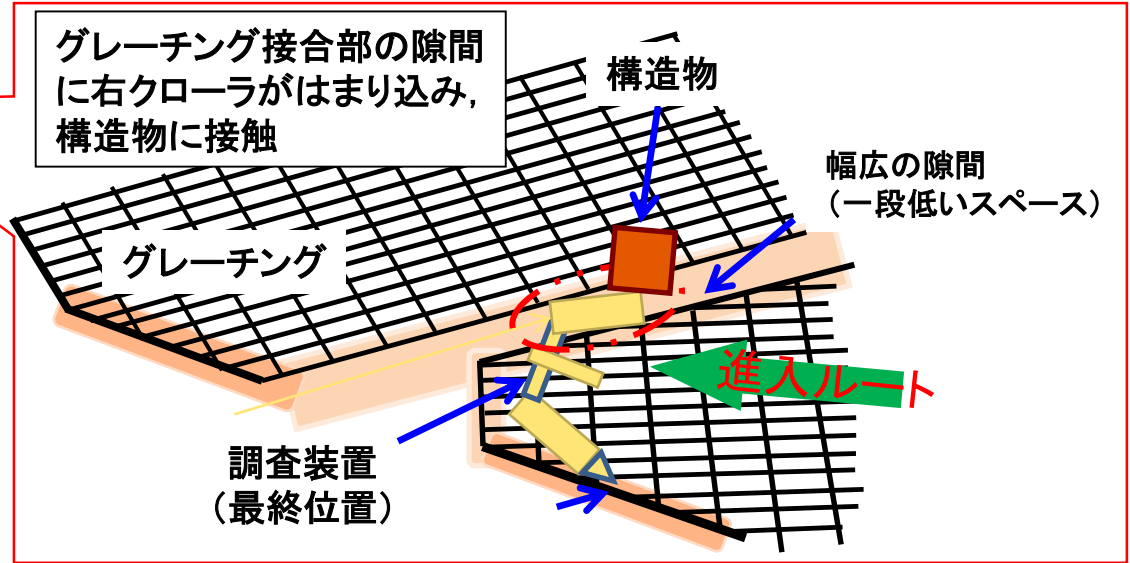
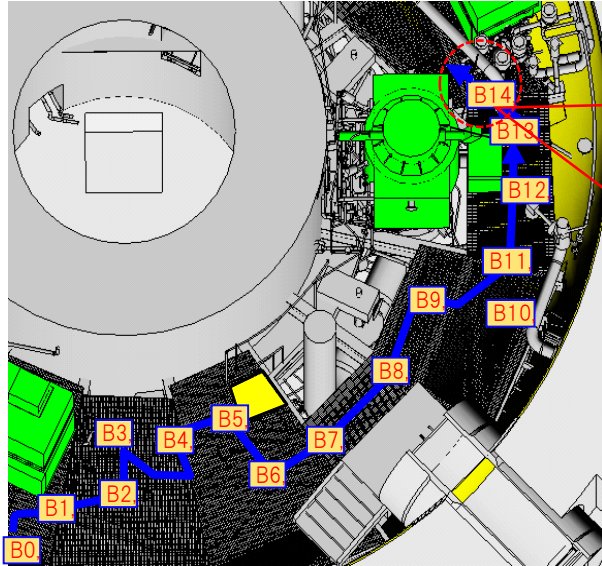
7. 残置ケーブルの状況

- 残置ケーブルのルートは以下の通り。
- 地下階アクセス開口部近傍の残置ケーブルは、B2調査に支障がないことを確認した。



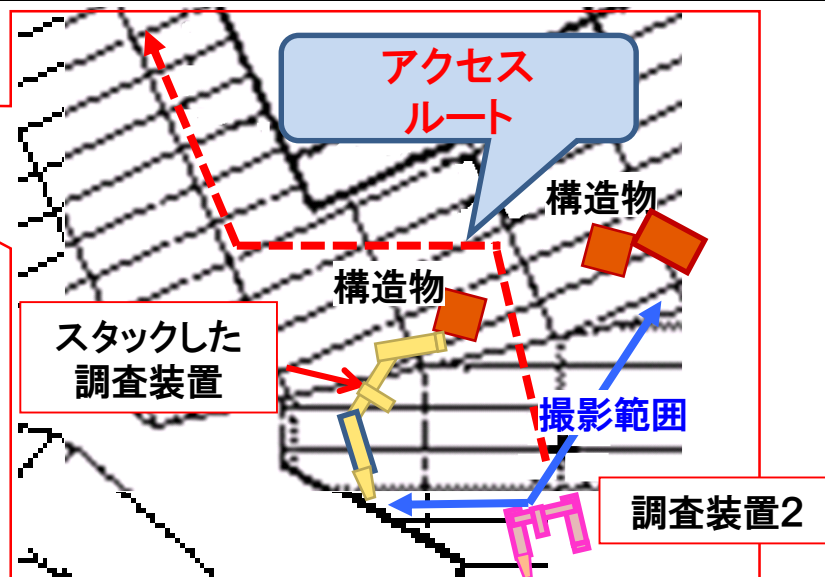
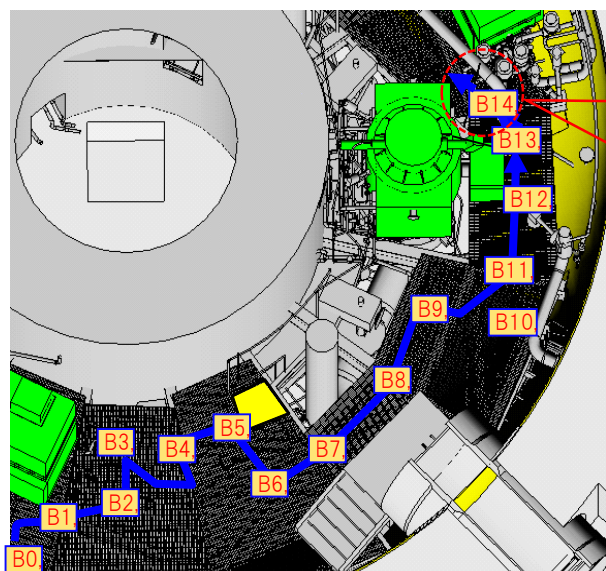
8. スタックした調査装置の状況

■スタックした調査装置の状況について確認。



9. CRDレールまでのアクセスルートの確認

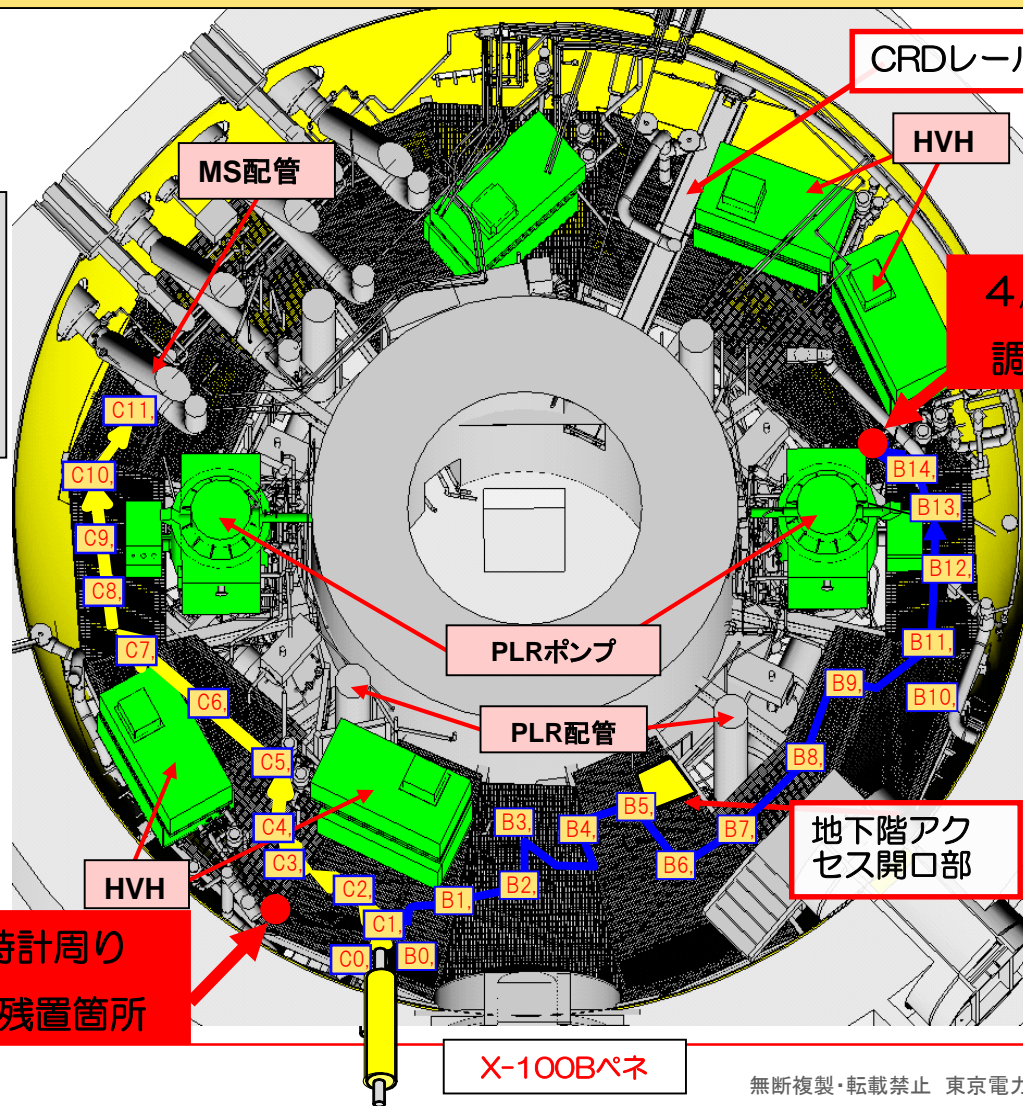
■CRDレールまでのアクセスルートは、**構造物間の幅が狭く通過できないと判断。**



10. 調査装置の残置について

- 調査装置の残置箇所は以下の通り。
- 残置した調査装置は、次回B2調査に支障がない。

- ➡ : アクセス実績ルート (反時計周りルート)
- ➡ : アクセス実績ルート (時計周りルート)



4/13反時計周り
調査装置残置箇所

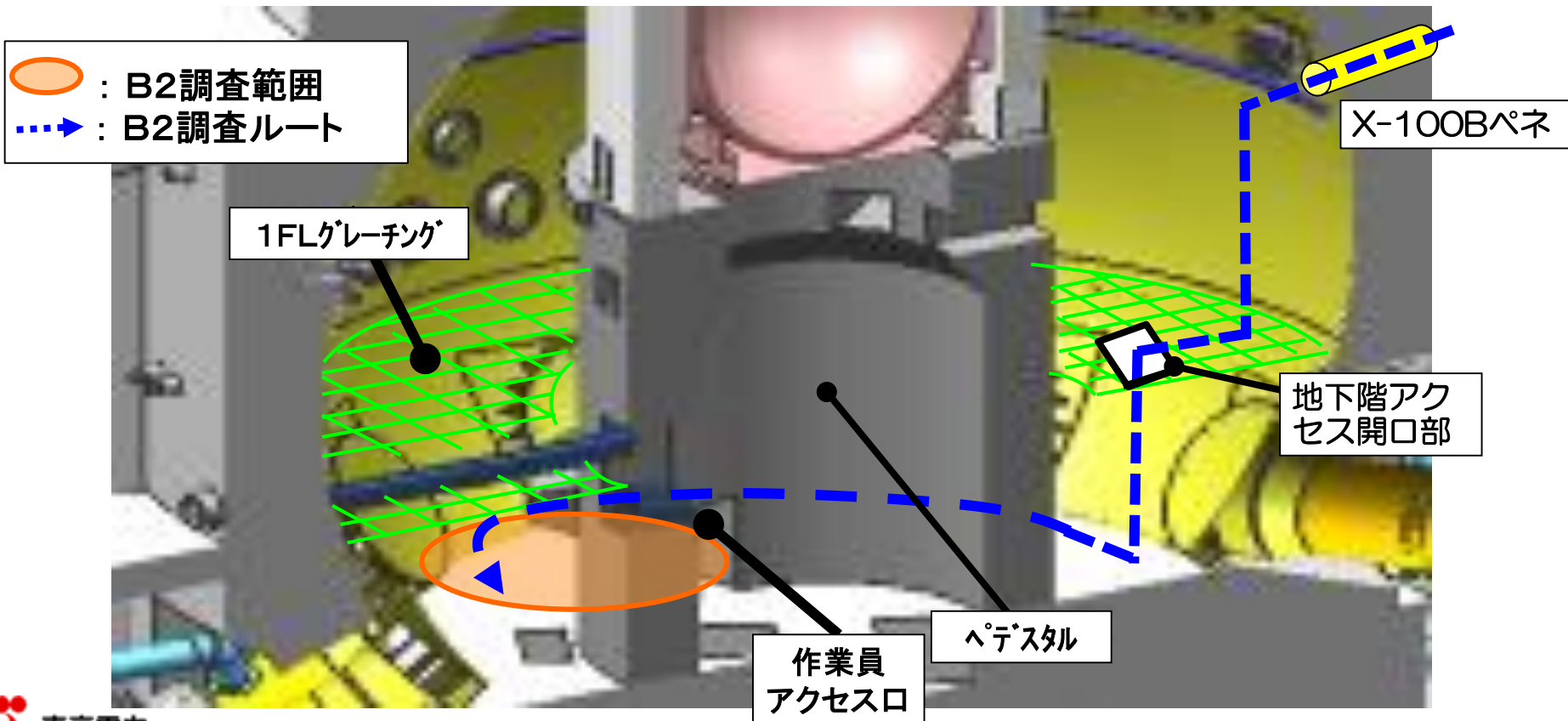
4/20時計周り
調査装置残置箇所

地下階ア
ク
セ
ス
開
口
部

X-100Bペネ

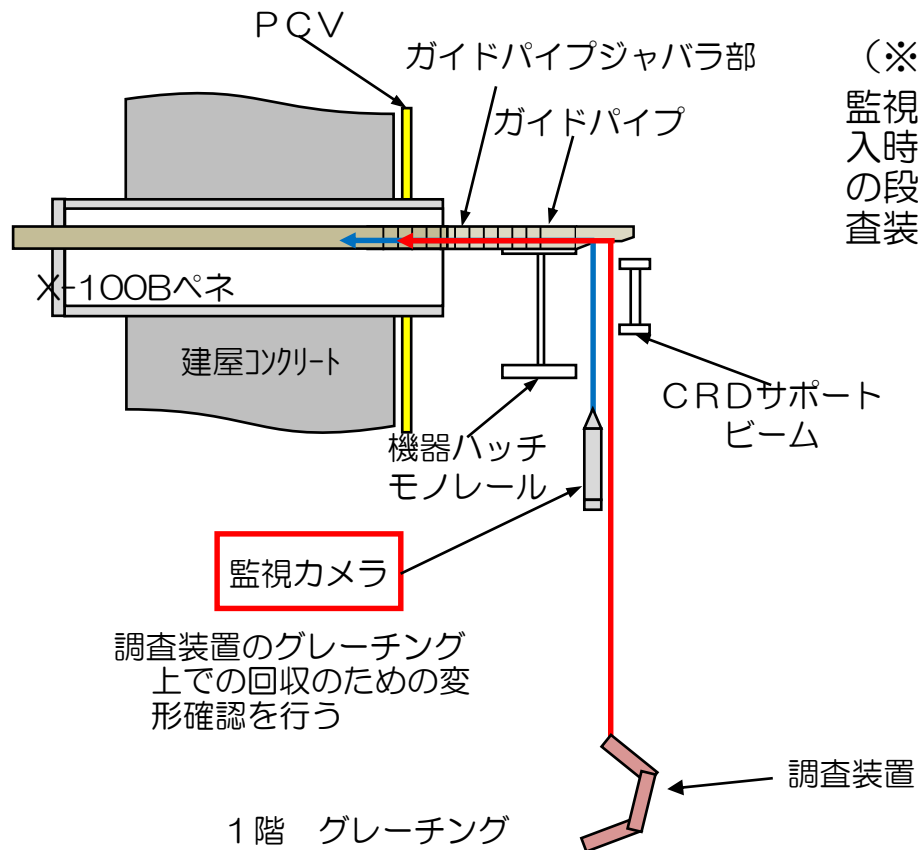
11. まとめ

- ペデスタル外1階グレーチング外周部の情報を取得することができた。
- 今回の調査結果を、次のB2(ペデスタル地下階)調査の工法検討に反映する。



(参考) 2台目の調査装置の残置について

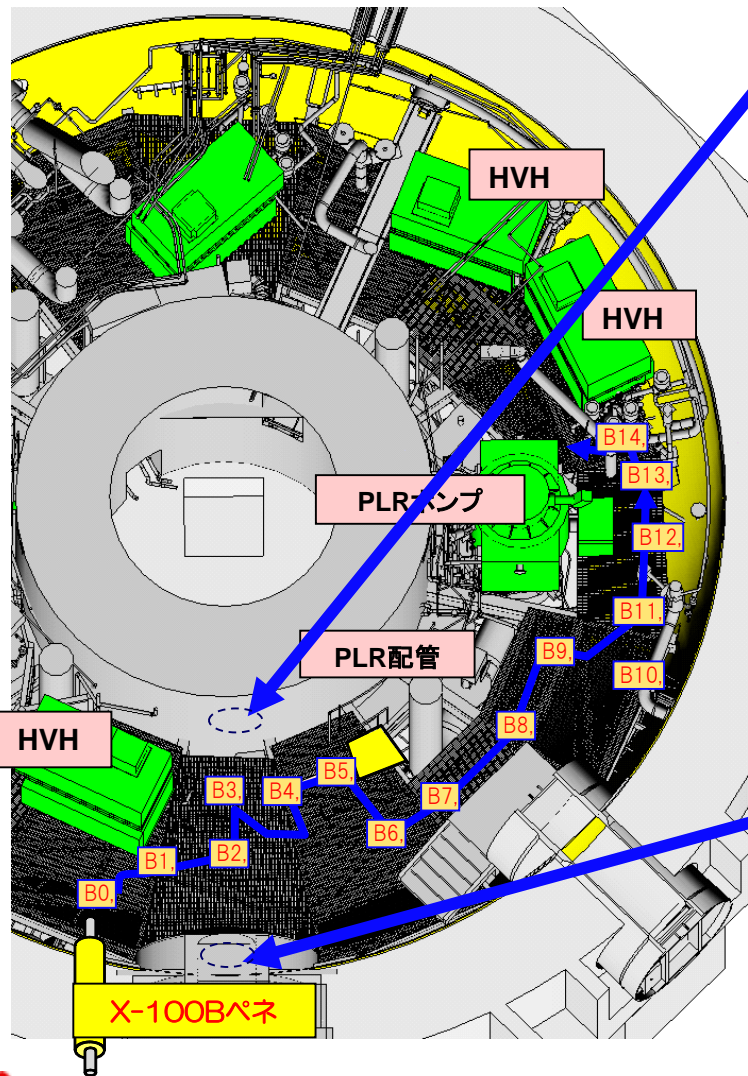
■監視カメラが放射線の劣化(推定)により視認性が極端に劣化し、調査装置の回収時における変形確認ができなくなったため、調査装置の格納容器外への回収はリスクがあると判断(※1)した。



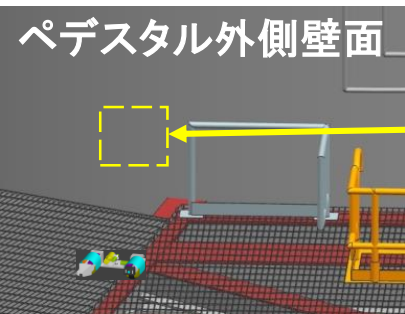
(※1)

監視カメラの劣化に加え、調査装置挿入時にガイドパイプジャバラ部に若干の段差が認められるため、通過時に調査装置が引っかかるリスクがある

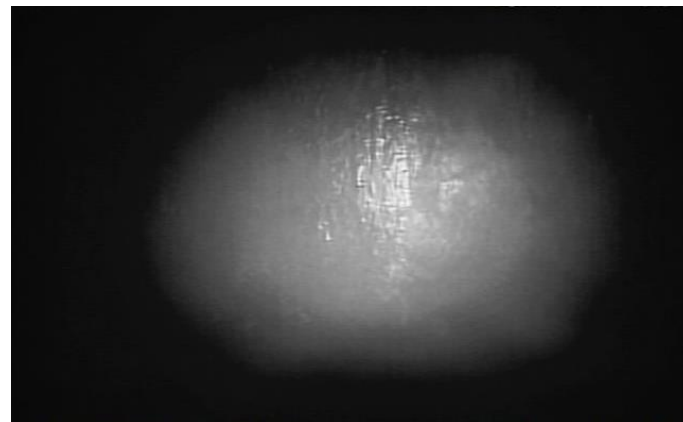
(参考) 映像トピックス (機器ハッチ, ペDESTAL外側壁面)



B3から撮影 ペDESTAL外側壁面の外観状況
ペDESTAL外側壁面に大きな損傷がないことを確認。

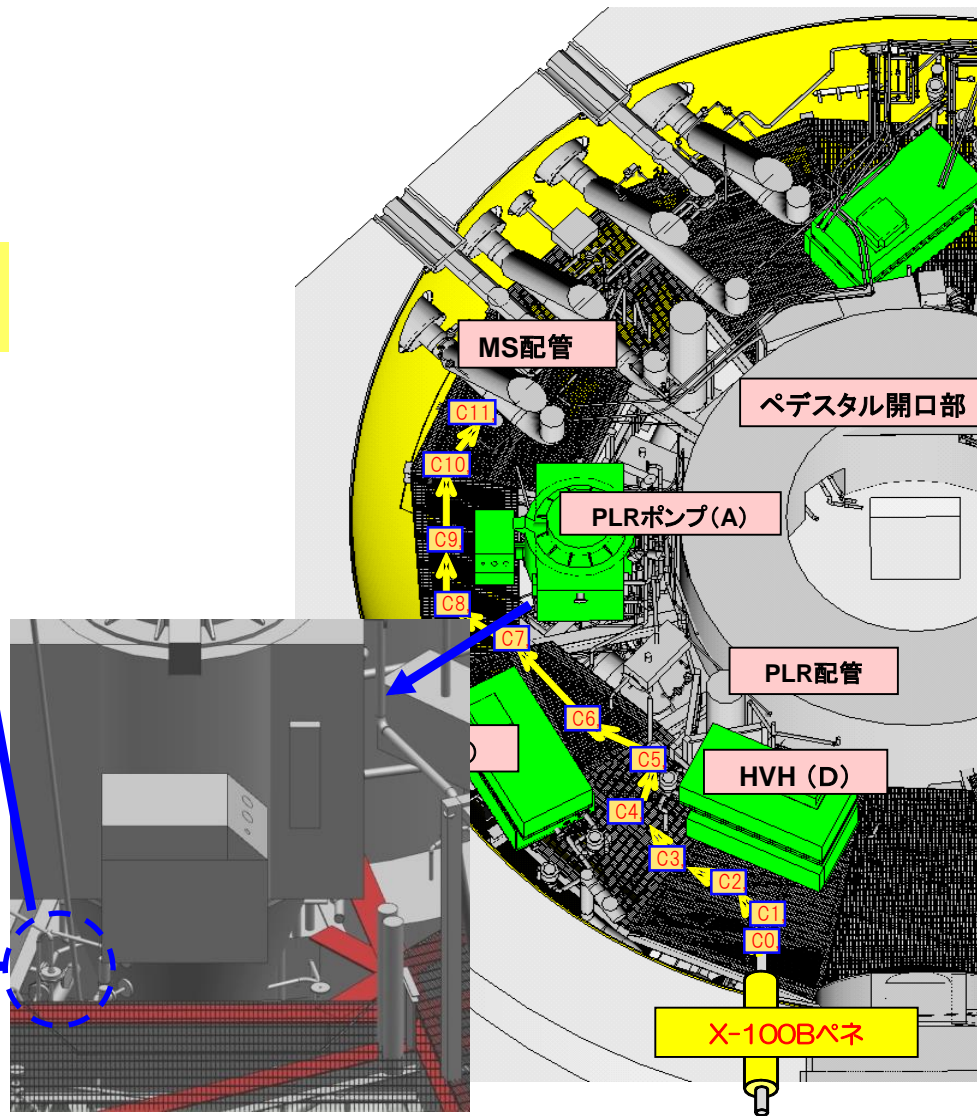


B2から撮影 機器ハッチの外観状況
機器ハッチに大きな損傷がないことを確認。



(参考) 映像トピックス (PLRポンプ (A))

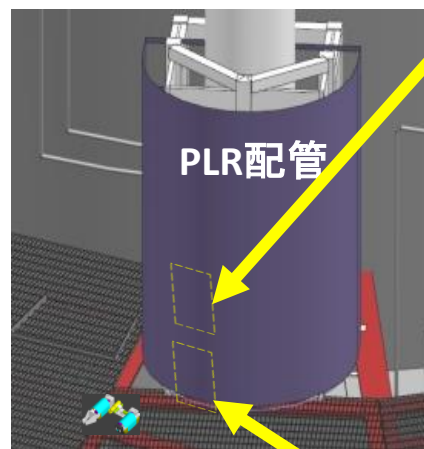
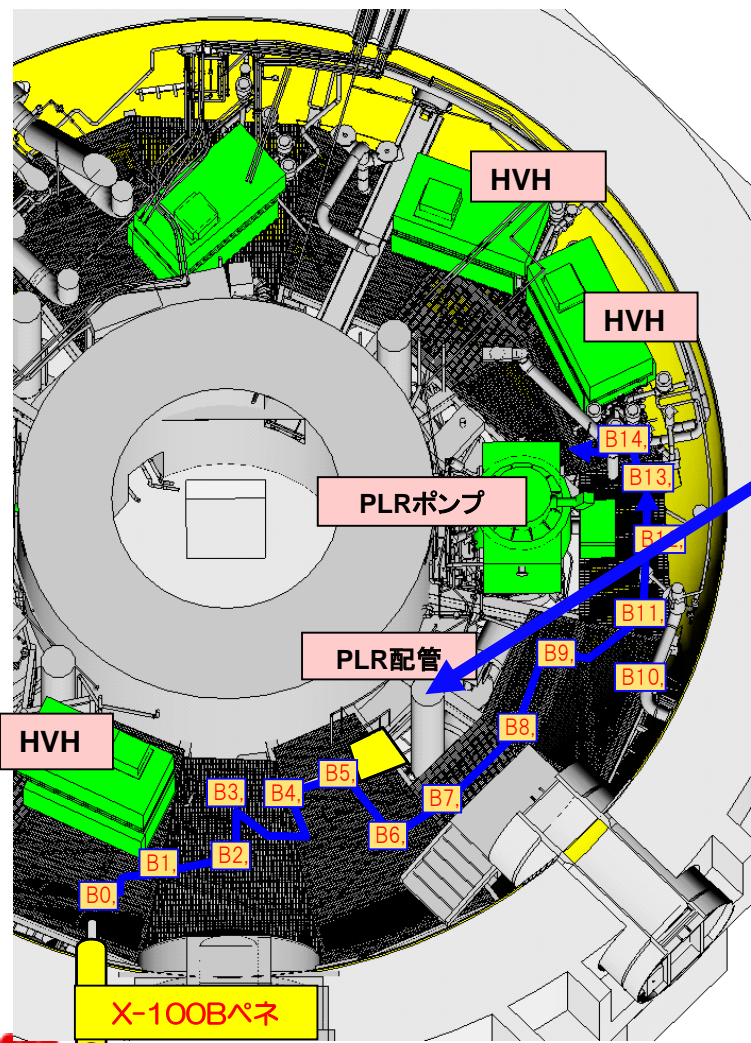
C10から撮影



(参考) 映像トピックス (PLR配管)

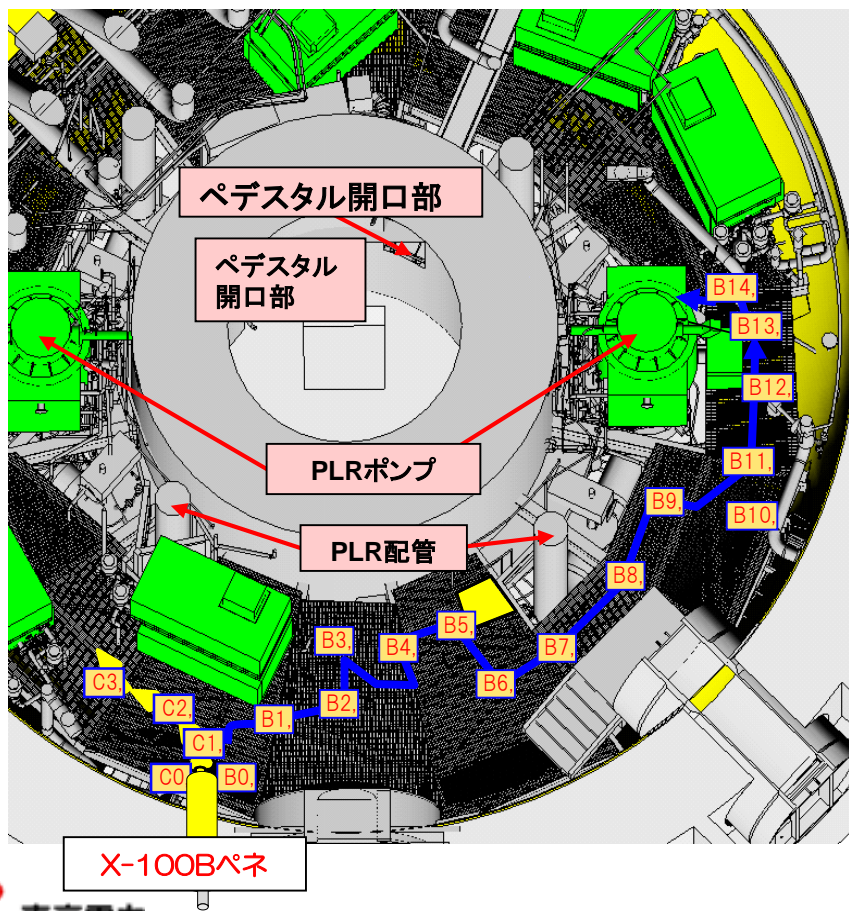
B7から撮影

- ・PLR配管(保温)に大きな損傷がないことを確認。
- ・配管遮へい体が落下していることを確認。



(参考) 温度・線量率測定

■反時計周りの再調査後，以下のポイントについても温度・線量率の測定を実施した。



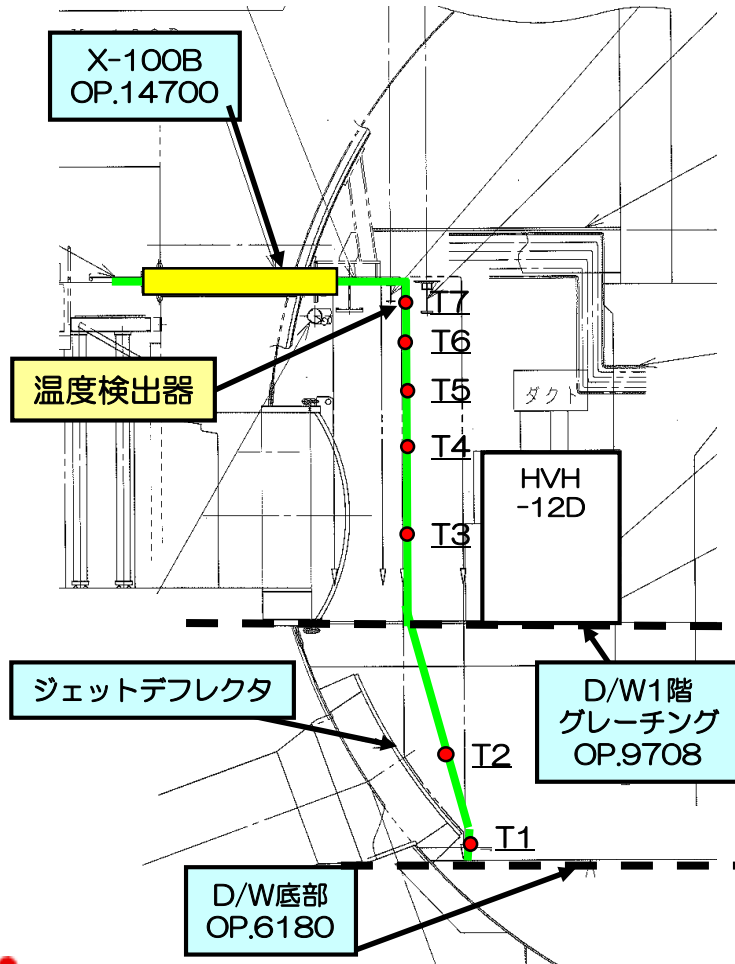
測定日：2015年4月19日

	線量率 (Sv/h)	温度 (°C)
B14近傍	4.4	17.9
B11近傍	5.7	18.7
B7近傍	5.9	19.1
最終残置 (C3近傍)	4.1	20.4

(参考) PCV内常設監視計器再設置結果 (1)

■ PCV内常設監視計器再設置の概要

1号機 B1調査のためPCV内常設監視計器を取外していたが、調査終了に伴い、同等のものを同じ位置に設置した。(詳細位置については評価中。)



新設温度計

[4/23 12時データ]

No	据付レベル (評価中)	指示値 (°C)	直流抵抗 (Ω) (測定値/設計値(±56))
T7	OP.14500	18.1	1830 / 1842
T6	OP.14000	18.1	1845 / 1858
T5	OP.13230	18.0	1875 / 1889
T4	OP.12500	17.8	1903 / 1917
T3	OP.11200	17.8	1950 / 1965
T2	OP.7500	18.9	2091 / 2102
T1	OP.6330	18.9	2135 / 2146

既設温度計

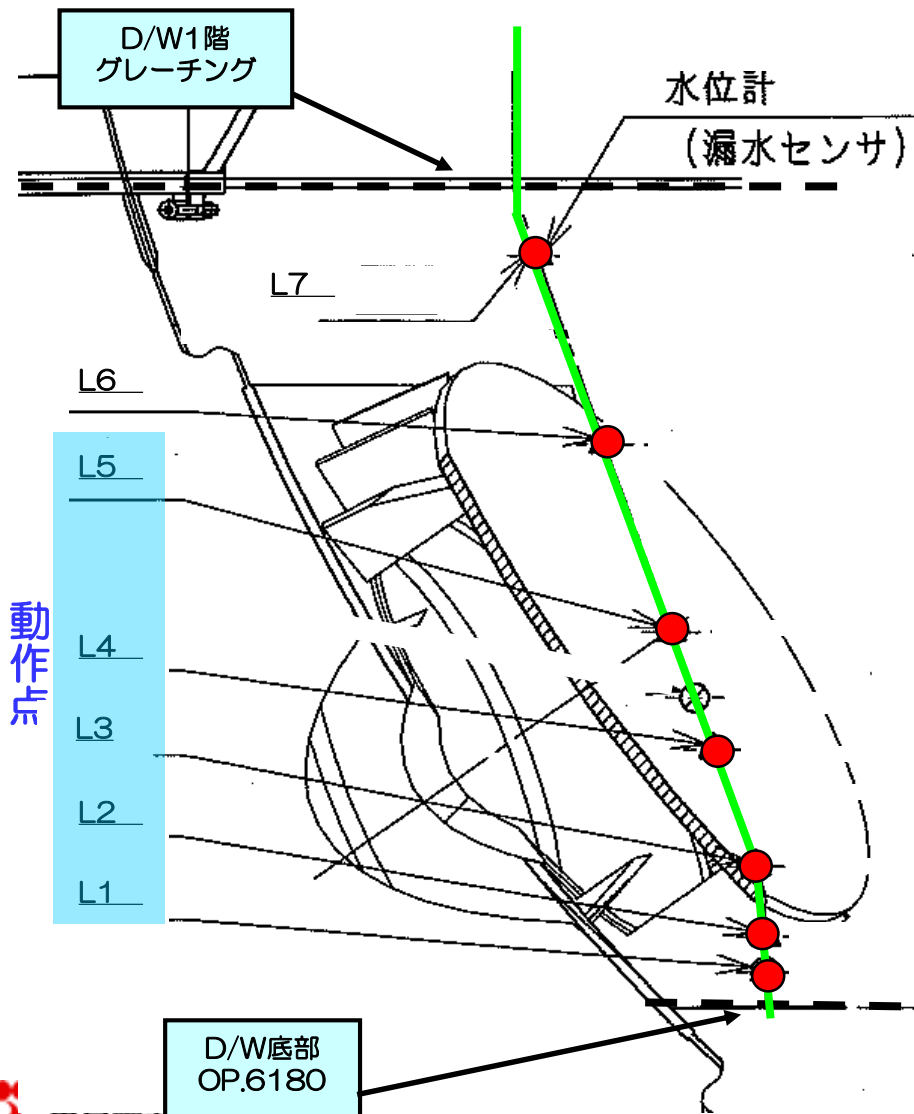
[4/23 12時データ]

OP.14000	TE-1625J	24.9°C
OP.11200	TE-1625D	17.4°C

【参考】B1調査時測定温度(グレーチング高さ)
17~20°C程度

(参考) PCV内常設監視計器再設置結果 (2)

■ PCV水位計動作点の確認



■ 水位計動作状態

- 動作 : L1~L5
- 不動作 : L6~L7

⇒ PCV水位および水位計据付レベルについて現在評価中

(参考) 設置結果まとめ/温度計の今後の扱い

■設置結果

①PCV内温度

再設置した熱電対について、挿入後の直流抵抗値・絶縁抵抗値ともに問題のないこと、交換前後においてほぼ同様の値を示していることを確認でき、問題なく設置されていることを確認した。

②PCV内水位

PCV水位および水位検出器設置位置については現在評価中。

■温度計の今後の扱いについて

設置した温度計について、今後1ヶ月を目安に、原子炉への注水状況や外気温変動等の状況に応じた挙動を示しているかの確認を実施し、冷却状態の監視に使用できると判断される場合、実施計画Ⅲ章18条の冷温停止状態監視温度計に選定する予定。